

# アジア・アフリカ ラテンアメリカ

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

■ 2 面	全国で「侵略やめる！」の声
■ 3 面	島のどこにもミサイル基地はいらない
■ 4、5 面	ASEANの歩み（下）
■ 6 面	第1回常任理事会
■ 7 面	列島 AALA
■ 8 面	わたしと AALA

2022年4月1日 No.741

## ロシア軍はただちに撤退せよ！プーチン政権の ウクライナ軍事侵攻を糾弾する

日本 AALA は 2 月 25 日、ウクライナへの「ロシアの軍事侵攻を非難し、軍事行動中止を求める」声明を発表、駐日ロシア大使館に抗議文を打電しました。各県 AALA も抗議声明を採択し、抗議行動に立ち上がりました。日本 AALA は 2 月 28 日から 3 月 25 日まで 4 回、日本平和委員会とともにロシア大使館近くで、ロシア軍の行動を糾弾、即時撤退を求める抗議行動をおこないました。

国連総会は 3 月 2 日、ロシアのウクライナ侵攻を非難し、即時撤退を求める決議案を 141 カ国の圧倒的多数の賛成で採択。世界各地では、ロシア国内を含め、プーチン政権の蛮行を糾弾する大規模な大衆行動が連日おこなわれ、「戦争やめる」「軍事同盟の拡大ノー」の声が広がっています。



### 日本 AALA 声明 **ロシアの軍事侵攻を非難し、軍事行動の中止を求めます** (2月25日発表)

ロシアはウクライナ問題の外交解決をもとめる国際世論を無視して、24日からウクライナ全土への大規模な軍事侵攻を開始しました。これはウクライナの主権と領土を完全に侵害する武力行動であり、国際関係において「武力による威嚇または武力の行使」を慎むよう求めた国連憲章と国際法に明白に違反するものです。

プーチン大統領が侵攻にあたってのべたどのような口実も、法と人道に反する今回の行為を正当化することはできません。軍事侵攻によって民間人を含む多くの犠牲者がでていると伝えられています。私たちは、このロシアの行動を強く非難し、ロシア軍の軍事行動を即時停止し、撤退するよう求めます。

プーチン大統領がこの危機にあたって核兵器の保有を誇示して、その先制使用まで示唆して、世界をどう喝していることは許しがたいことです。プーチン政権の暴走をとめさせるのは、ロシア国内を含めて世界中に広がる国際世論です。「戦争やめよ」の一点で団結し、声を上げていこうではありませんか。ロシアの軍事力行使はウクライナ問題の解決につながらないだけでなく、事態を一層複雑にして危機を深めるだけです。私たちは、次のことを求めます。

- ・ロシアをはじめ関係国は戦争をとめる外交努力を続けること
- ・ロシアをはじめ関係国は、ウクライナの主権を尊重し、外部からのあらゆる介入をやめること
- ・関係国は、ウクライナ国民が少数民族の扱いの問題を含め、自主的、民主的、平和的な方法で国の秩序を回復できるよう支援すること

日本 AALA 連帯委員会は、世界の民族独立運動を支援し、主権と独立を守ってたたかう人々と連帯運動をすすめてきました。この立場から大国のあらゆる覇権主義に反対し、今回の危機の背景となった軍事同盟・ブロックの解消を求めます。そして日本が一日も早く日米軍事同盟のくびきから脱し、自主的な立場にたった平和外交に転換することを求め、東アジアの平和的秩序づくりと、非核・非同盟・中立の日本をめざして活動します。

## ロシアはウクライナから撤退しろ

# 全国で「侵略やめろ!」の声

### ●北海道

北海道 AALA は、2月27日、JR札幌駅南口で行われた「ロシアのウクライナ軍事侵攻に抗議する集会」に参加しました。プーチン大統領の暴挙を糾弾するとともに、この事態を改憲や敵基地攻撃能力の保持に結びつけようとする日本政府の策動への警告もしました。



### ●埼玉

埼玉 AALA は3月4日、浦和駅東口で開催された「戦争させない!埼玉の会」によるロングラン抗議行動に参加しました。河内理事長が「ロシアのウクライナ侵略を糾弾し、世界の市民社会は結束・連帯し、平和の国際秩序を守り育てよう」と訴えました。



### ●大阪

大阪 AALA は、2月28日、大阪平和委員会、大阪 AALA、大阪原水協、大阪労連の呼びかけで大阪豊中市にあるロシア領事館前の抗議行動に取り組みました。11時から30分間の抗議行動でしたが、参加者は120人、豊中の地域の団体などやSNSで知った若者の参加もあり、領事館前の歩道はいっぱい。住宅街なのでマイク等を使っての抗議行動はできず、横断幕、各自手作りのプラカードを掲げてのスタンディングでした。



## ●ウクライナ支援募金へのご協力をお願い●

日本 AALA は、2月24日のロシアによるウクライナ軍事侵攻に対して、直ちにロシア大使館に抗議電を打つとともに抗議声明発表しました。全国の AALA 組織も他団体とも共同しながらロシアへの抗議行動とウクライナの激励の活動に取り組んでいます。

こうしたなか、日本 AALA は、困難に立ち向かうウクライナ市民を応援したいとの声に応えるため、日本 AALA として支援募金をお願いすることとしました。お預かりした募金は、UNCHR（国連難民高等弁務官事務所）など人道支援に活用される団体を精査しお届けします。現地の医療状況は大変厳しいものとなっていますので、全日本民医連などと連携をとりながら医療や子どもたちの支援にできるだけ活かせる

ようにもしたいと考えています。

各地でそれぞれの募金の取り組みもあると思いますが、日本 AALA を通して募金したい方への呼びかけをよろしくお願いします。募金は下記の郵便口座で受け付けます。

### 郵便振替

◇口座記号・番号 00110-6-72434  
 ◇加入者名 日本 AALA 連帯委員会  
 \*通信欄に「ウクライナ募金」と明記してください



予定地入口での抗議集会 (3月5日)

# 島のどこにも ミサイル基地はいらない

石垣島に軍事基地をつくらせない市民連絡会 藤井 幸子

石垣でのミサイル基地建設は、住民の反対の声を踏みにじって、2023 年 3 月末の配備に向け、急ピッチで進められています。

## ミサイル基地を置けば戦場に

尖閣問題、「台湾有事」を口実に自衛隊と在日米軍の一体化を強める動きが加速しています。岸田政権は、ロシアのウクライナ侵略に乗じて核共有まで持ち出し、憲法改悪を狙っています。今年も復帰 50 年。核も基地もない沖縄、平和憲法のもとへの県民の願いは踏みにじられたままです。軍隊は住民を守らない。沖縄戦の教訓です。攻撃を受ければ、シェルターも無く、島外避難もできず暮らしも命も守れません。

私たちは、軍事対軍事の対立路線をやめ、平和的外交努力で尖閣問題の解決、地域の平和と安全を築く道を求めて運動しています。

## 環境、暮らしを破壊する基地建設は中止を

ミサイル基地は、攻撃の対象に



◀クレーンが林立する予定地 (3月5日)  
予定されている施設名が記入されている建設予定地▼

なるだけではありません。建設による暮らし、環境破壊です。

予定地は、水道水の地下水源地、農業用水の取水堰の上流域、涵養域にあたるのに、その影響を調べることなく建設を強行しています。基地内からの排水計画も明らかにされず、万が一汚染されれば取り返しがつきません。また、予定地とその周辺は、国の天然記念物、絶滅危惧種であるカンムリワシの優良な生息域であり、動植物の貴重種が生息する自然豊かな場所です。その上、造成工事に伴う騒音や建設工事車両の増加による近隣住民の暮らし、健康が破壊されています。

4 棟設置される弾薬庫は、一番近い集落からわずか 200m、通学路からは 150m と不安は尽きませ



ん。

## 配備反対を多数派に

石垣市長や与党市議は、自衛隊配備について、国防は国の専権事項だとして、住民の声を無視、市民の命、安全を守ることを放棄しています。

去る 2 月 27 日投開票の石垣市長選は、残念ながら住民投票実施を掲げた保革を超えた市民共同候補は敗れてしまいました。でも、私たちは、あきらめません。陸自配備反対を多数派に、市政を市民に取り戻す闘いは続きます。

# 平和・協力の東アジアの地平を開く ASEANの歩み (下)

## インド太平洋構想にも開放・包括性貫く

鈴木 勝比古 (ジャーナリスト)



「ASEAN インド太平洋構想」を採択した2019年6月バンコクで開催されたASEAN 首脳会議の開会式 (タイ外務省ホームページから)

2005年7月のビエンチャンでの第38回ASEAN(東南アジア諸国連合)外相会議(AMM)の東アジア首脳会議(EAS)創設に関する合意内容は基本的にはすべて今日まで引き継がれ、発展しています。当時、未参加の米国、ロシアも2011年から参加し、EAS参加国は世界人口の過半数を占めるに至りました。しかし、EASの開催地も、議長国もASEAN側の主張どおり、ASEAN各国の輪番です。前回、紙数の関係で触れなかった「開放性・包括性」の原則も継承されています。

### EASの開放性・包括性

EASの拡大・発展には、ASEANが掲げる「開放性・包括性」の原則が重要な貢献をしています。第38回AMMの共同声明は東アジア首脳会議立ち上げにあたって「ASEANは開放的(オープン)、包

括的(インクルーシブ)な態度を堅持する」として、各国の参加を広く呼び掛けました。当時、米国はまだEAS参加に踏み切っていませんでしたが、米国のゼーリック 국무副長官はビエンチャンでの記者会見で「ASEANは、開かれた包括的な態度をとることでこそ力を発揮できる」と歓迎の意思を表しました。

米中対立のエスカレートとともに、米国と軍事同盟を結ぶ、米、豪、日3国の軍事演習が繰り返され、「米豪日印4カ国の戦略対話」(QUAD=クアッド、4角形の意)などこの地域で中国封じ込めを図る試みが進んでいます。これに対し、2019年6月にバンコク(タイ)で開催されたASEAN首脳会議は「ASEANインド太平洋構想(AOIP)」を採択し、ASEANがEAS創設以来、一貫して追求してきたアジア太平洋の「平和・協力地帯化」をインド洋地域まで拡大する展望を具体化しました。

AIPO構想はアジア・太平洋とインド洋地域を「隣接し合う領土空間としてではなく、密接に統合され、相互に連結した地域として」位置付けています。これはかつてアラブ商人がインド洋、太平洋を航海して交易し、イスラム教をアジアに伝播した歴史を想起させ、近くは2004年末のインド洋大津波でインド、スリランカとともに東南アジア諸国が大きな被害を被ったこの地域の共通の体験にもつながります。

タイの元外相で、後にASEAN事務局長を務めたスリン・ピッツワン氏は「東南アジアは(東西)文化の交差点に位置し、さまざまな文化・宗教の交流の中で私たち自身の多様性、相互に尊重しあう寛容性が育まれました」(2005年11月、バンコクでのインタビュー)と語りました。彼自身、イスラム教徒でありつつ、仏教国タイの外交を担いました。東南アジア諸国にとっては、インド洋地域や太平洋地域の国々は、いずれも互いに対抗し、敵対するのではなく、多様性を尊重し、互いを受容することで共に発展できる国々であり、地域であるのです。

インドネシアのASEAN研究者、アマタフ・アチャリヤ教授(ワシントンのアメリカン大学国際関係学教授)は電子版『東アジアフォーラム』への寄稿論文(2019年8月11日付)で「インド・太平洋構想はかつて日本、オーストラリア、インド、米国などのASEANの外部の勢力によって追求されたが、今後、ASEANは、こうした外部勢力にインド・太平洋に関する論議の支配をさせないだろ



長野 AALA 訪問団と懇談するインドネシアのウィリヨノ・サストロハンジョヨ元ジュネーブ国連特別大使(右)と高村裕長野 AALA 事務局長(当時) = 2014 年 11 月 25 日ジャカルタで筆者撮影



長野 AALA 訪問団と記念撮影するサストロハンジョヨさん(後列右から 5 番目、その右は高村裕長野 AALA 事務局長) = 2014 年 11 月 25 日ジャカルタの戦略国際問題研究所 (ISIS で撮影)

う」と指摘します。

ASEAN の「戦争と平和」についての考えで、私がとくに感銘を受けたのは元インドネシア外務省総務局長で、ジュネーブ国連特別大使を務めたウィリヨノ・サストロハンジョヨ氏の言葉です(2014 年 11 月、ジャカルタのインドネシア戦略国際研究所で長野 AALA のインドネシア訪問団と 2 時間にわたる懇談の際の発言)。訪問団が「ASEAN はアジアと世界の平和の流れに大きく貢献している」と称えたことに、彼は「ASEAN は過去 40 年間、紛争が戦争になることを避けてきただけであって、紛争を解決できたわけではない。これからの外交は外交辞令ではなく、思ったことを正直に話して解決するべきです」と答えました。そして、「平和のために戦争に備える時代は去りました。『平和がほし



ボロブドゥール仏教遺跡を訪問したジャカルタの高校生たち。彼女たちはみなイスラム教徒(2014 年 1 月 筆者撮影)

ければ平和をもって備えよ』と思っています」と付け加えました。敵基地攻撃論を唱え、憲法 9 条を改定しようとしている人たちに聞かせたい言葉です。

ASEAN のベテラン外交官の言葉

は、紛争が容易に関係を亀裂させ、敵対関係に陥ることを熟知した人物が発した言葉だからこそ、ずっしりとした重みがあり、平和を維持することのむつかしさと尊さを告げるものでした。

## 主催・岡山 AALA 共催・日本 AALA 学習会 協力・共存のアジアを目指す ASEAN の挑戦

日時 **4 月 9 日 土**  
**14:00 ~ 16:00**

会場 **岡山県民主会館 AB**

講師 **井上 歩さん**  
国際ジャーナリスト

資料代 200 円

米中対立のなかのウクライナ危機で、世界はどうなるのか。対立ではなく協力の理念をかがけてアジア太平洋の平和秩序建設に  
いどむ ASEAN を中心とした努力とその可能性を探ります。  
講師の井上歩さんは、「しんぶん赤旗」のハノイ駐在記者としてダイ  
ナミックな動きを現場で取材、4 年間の任務を終えて帰国したば  
かりです。オンラインで全国から視聴できますので、以下から入場  
ください。

ZOOM ミーティング ID: 839 8012 2764  
パスコード: 993717

# ASEAN プロジェクトの立ち上げ カンボジアツアー催行を確認

## 日本 AALA 55 回定期大会の方針具体化協議

### 第1回常任理事会開催

日本 AALA は、1月22日に第1回常任理事会をオンラインで開き、第55回大会方針の具体化について協議し確認しました。常任理事会には常任理事16人（定数25人）が参加しました。以下は協議し確認した内容と発言の概要です。

議長：吉田万三代表理事

#### 1 情勢と国際活動について

田中代表理事（国際部長）

大会の活動方針にある AALA らしい活動、わかりやすく、元気になる、魅力的な運動をどうすすめるか。さまざまな護憲運動などがある中で、アジア・アフリカの民族解放運動とその後の非同盟運動との連帯という原点に立ち返りながら、AALA 地域の人民と連帯した運動をどうすすめるかが大事。その上で、機関紙の新年号に掲載された栗田教授と吉田代表理事の対談で話されたポイント、「ポスト冷戦」が終わり新しい時代がきているという認識が大事。アフガニスタンからのアメリカの撤退に象徴される新しい情勢、深部の進歩的動きをしっかりとらえたい。バイデン大統領などの「民主主義対専制主義」という図式ではない国際情勢のとらえ方。特に、中国に対する向かい方では、大会前の役員会で確認した原則①軍事ではなく外交で②価値観の違いを批判の基準にするのではなく③対立ではなく包摂的な協力などの立場が大事であることを強調した。東アジアの平和共同体をめざして第8次の『国際署名』の推進、非同盟首脳会議がコロナの影響で一年延期になったことや AAPSO の現状などについて報告。

#### 関連発言

吉澤文寿常任理事から「最近の日朝・日韓関係—佐渡鉦山の世界遺産登録と植民地支配」、坂本学術研究部長から「東アジアの平和における ASEAN の役割」、鈴木頌常任理事から「ラテンアメリカの新しい情勢—一連の選挙勝利と左翼政権の誕生」について発言を受けた。

#### 発言（情勢）

井村弘子（兵庫）：中国の問題についての要望。

AALA のスタンスについて見解まとめてもらいたい。学習会と国際署名について。

大西広（本部）：中国問題の提案について。

林俊充（茨城）：国際署名のあらたな役割と他団体との共同について。

#### 2 組織部報告

野本代表理事（組織部長）

①全国組織・財政担当者会議について。3月24日（木）開催する要項に基づいて報告。昨年4月から69人会員拡大。組織強化。弱体している県への訪問。財政強化と会費納入100%をめざすため会員との結びつき強化などを論議する予定。

②国際署名は、責任者を野本代表理事として目標10000筆をめざす。コロナ禍で訪問して届けられなかった第6次：個人6209筆、団体225筆、第7次：個人6154筆、団体172筆は ASEAN 事務局に郵送で届けることとした。7年間の累計は、個人87959筆、団体1686筆。署名提出のために今年度議長国のカンボジアへのツアーを企画する。

③全国学習交流集会

11月頃、愛知県での開催を準備したい。

#### 発言

井村弘子（兵庫）：署名をすすめるためにも日本の安全保障について学ぶことが重要になっている。

佐藤龍雄（埼玉）：埼玉での国際署名のとりくみと会員拡大について。

大西（本部）：学者の会員拡大の特段のとりくみについての提案とネット活用について。

有吉顧問：若い方の会員拡大の経験について。

#### 3 会務報告

○11月の大会以降の AALA の主な活動の報告。55期日本 AALA 専門部の分担を確認した。

◇組織部：野本久夫

片岡満、上村得世、高橋昌平、佐藤瀧雄、林俊光、吉田万三

◇財政部：岡阿弥靖正

長谷川道弘、箱木五郎

◇教育宣伝部（教宣部）：松井幸博

河内研一、野本久夫、田中靖宏、宮城恭子、鈴木頌、箱木五郎

◇国際部：田中靖宏

鈴木頌、山崎圭一、福田秀俊、鈴木勝比古、井村弘子、有吉節子、安井倫子、大村哲、坂本恵、山本富士夫、上村得世、松井幸博

◇学術研究部：坂本恵

河内研一、石山久男、大西広、大村哲

○採用人事

会計担当者として 11 月 17 日宮田富美男氏（週 1 回～2 回）を採用。

- 会計の引き継ぎについて岡阿弥財政部長が報告。
- 事務局諸規定の見直しについて吉田代表理事が報告。
- ASEAN プロジェクト立ち上げを確認した。
- ホームページ・リニューアルについて報告。
- チリ・ボリビアの取材チーム派遣の検討に入ることを確認。

**主な発言**

- 林俊光（茨城）：組織部と財政部のあり方について。
- 長谷川道弘（大阪）：第 4 回学習会について。学習だけでなく交流重視。
- 山本富士夫（福井）：ラテンアメリカの米軍基地の現状について。
- 岡阿弥靖正：日本の安全保障についての学習について。抑止力→軍事力→やがて戦争
- 田中靖宏代表理事：5 年前の安保法制からの状況変化について。
- 坂本恵（本部）：安全保障は、英語では security であり、軍事同盟を意味することについて。



**北海道**

**熱気あふれる学習会**

北海道では、毎月第 4 土曜日に「道 AALA 教室」という名の定例学習会を開催しています。

2 月 26 日は、アイヌ民族にルーツを持つ会員の山下明美さんに「アイヌ民族抵抗史を読む」と題してお話いただきました。山下さんは、昨年 8 月 20 日に行ったウポポイ（民族共生象徴空間）ミニツアーにガイドとして参加いただいたのがご縁で、会員になってくださった方です。

50 年前に書かれた書籍『アイヌ民族抵抗史』の内容を紹介する形で、アイヌ民族が大和朝廷の時代から近代まで「天皇侵略軍」と勇敢に戦ってきた歴史を紐解きま



した。地理的には東日本全体を舞台に、歴史的には奈良時代から、先住民族であるアイヌの激しい抵抗の歴史があったことを知り、大きな驚きを感じました。

当日は、事務局員の壹岐さんと娘の朱花さんが、チュニジアとバングラデシュから留学している女性を誘って聴きにきてくださいました。北大留学生のお二人はアイヌ問題にたいへん興味があるそうで、朱花さんの通訳を介して熱心に耳を傾けていました。ほかにも初めて参加された方がおられ、講師の山下さんを含め 12 人が参加。感想や補足意見も白熱し、熱気あふれる学習会になりました。

また、当日は加藤幾芳副理事長の協力のもとで、「Whereby (ウェアバイ)」を使ったりモートのテストを行いました。Whereby は、

2013 年にノルウェーの通信会社が開発したブラウザ完結型のオンライン会議サービスです。3 月からは、オンライン併用での学習会開催が可能になりそうで、広大な北海道の大地に点在する会員を繋ぐサービスが始められそうです。

（事務局長 片岡満）

**兵庫**

**世界を知り 日本を変えよう**

2015 年から始まり、今年は 8 年目の粘り強い「戦争するな！どの国も」国際署名。今“ロシアのウクライナ侵略戦争やめよ”の世界中の連日運動。特にロシア国内の命がけの運動に励まされる。

非核非同盟の闘いを追求してきた AALA の役割は大きい。連日兵庫でも団体の共同行動。特に「抗議はがき」は反響が大きい。市民にとって、私にできることとして青年の反応も大きい。

コロナ前までは、毎年の総会と学習会や秋の学習会を続け、若者の関心事に応えた内容で、参加者は 50 名～100 名にも広がり、20 代の若い会員も増えました。

他団体との共同も進み、「外国

人労働者支援兵庫県連絡会」結成、「映画を通してアメリカの歴史や社会を考える連続講座」（神戸映画サークルと兵庫県 AALA の共同企画）等兵庫県独自の運動で「兵庫県 AALA」に呼びかけもあり好評です。

今、5 月 22 日総会 & 「AALA セミナール」と銘打って、理事会で何度も討論し、青年の発言を中心に「トークセッション」準備中！そのために、若者理事を含め 4 人のチームでチラシを作り企画の具体化を進めていくことに。ところが、突然のロシアのウクライナ侵略もあるので、「世界の動きと日本の安全保障」=アジアは？米中関係は？などについて、対話形式で、最後に憲法学者の助言の後、



3月8日 憲法共同センターの「ロシアはウクライナの侵略戦争をやめよ」神戸大丸前の行動

AALA の運動「第 8 次国際署名」の訴えをするという企画。春から夏に向け大きな鳥くなるよう、その中で仲間も増やそうと思って

います。団体への国際署名の申し入れもしましたが、これからというところ。 (事務局長 井村 弘子)

### 第 8 次国際署名を広げましょう

日本 AALA 事務局は、3 月 9 日に「国際署名」用紙を各都道府県 AALA に送りました。大いに署名を広めましょう。同封した「署名推進マニュアル」も活用しましょう。

わたしと 143

**AALA**

北海道AALA 副理事長  
鈴木 頌

### ラテンの虜になって

私が AALA に参加したのは、1984 年のサンディニスタ勝利 5 周年記念集会からです。あの頃、1 ドル 280 円でした。

非常に感激して帰ってきて、一気に「自由か死か ニカラグア」という本を書き上げました。北海道では結構売れて、2000 部くらい売ったと思います。

そのあと北海道 AALA のメンバーとして活動し、ニカラグアキャンペーンに集中しました。ニカラグア在住の MM さんからサンディニスタの機関紙を送っても

らい 7、8 年は読み続けました。Windows95 が出て、インターネットができるようになると宝の山を見つけました。それがアメリカ国会図書館の各国史のサイトと、テキサス大学の LA 研究所です。ラテンアメリカ各国史はすべて読破し年表に取り入れました。テキサス大学のサイトでは、61 年 11 月はじめにキューバを訪れたミコヤンとゲバラらの秘密会談の会議録まで読むことができました。「キューバ革命史」に書き込んであります。

病院の地下室に 62～65 頃の「アカハタ」縮刷版が積んであり、仕事の合間を見ては潜り込んで、国際面からラテンアメリカ関連報道を抜き出していました。その頃は意外とタス通信の転載記事があって、ベネズエラやコロンビアのゲリラ活動の足跡はかなり掴んでいました。

本の巻末につけた年表はその後

膨大に膨れ上がり、ラテンアメリカの年表として私のホームページに掲載されています。「ラテンアメリカの政治」でググってください。かつては学生のレポート用に活用され、担当教官から「あのサイトからの引用はするな」と警戒されたことがありましたが、いまはグーグルの分厚いヘドロの底に沈んで、まったくヒットしません。その後も行きたい気持ちはやまやまながら、ついラテンアメリカと縁遠く過ごしてきました。キューバに 95 年に行ったのが最後となり、ずっとご無沙汰してきました。あのときは灯火もなく真っ暗なサンチアゴの民謡酒場で、観光客(ということは私たち)のために灯された明かりに多くの人が集まって、ソン・デ・マタモロの歌声に聞き入ったことを思い出します。たしかあれは 2 月 24 日、グリート・デ・ヤラ (キューバの独立記念日) の前の晩でした。

編集・発行

### 日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒 105-0014 東京都港区芝 1-4-9 平和会館 6 階  
電話 : 03 (6453) 7297 HomePage <https://www.japan-aala.org/>  
FAX : 03 (6453) 7298 E-mail : [info@japan-aala.org](mailto:info@japan-aala.org)  
振替 00110-6-72434 毎月 1 回 1 日 発行 1 部 150 円 (送料別 63 円)